

事務局扱い

基本フォント:日本語は全角でMS P明朝 10ポイント
英数字・記号はMS P明朝 または Times New Roman

システム農学 (J. JASS), xx(x) : xx~xx, 20XX 1

表題
MS Pゴシック 14ポイント
行間設定 固定値 19ポイント

研究論文 | 短報 | 技術論文 | 総説 | 資料

「システム農学会誌」投稿原稿(和文)の原稿作成要領(Ver.3.1)

—Microsoft Word を使った作成方法—

著者名
MS P明朝 12ポイント
行間設定 固定値 15.2ポイント
※氏・名が1文字の場合は、
氏と名の間に空白を取る

投稿区分
MS P明朝 10ポイント
いずれかを選択

守屋和幸¹⁾・廣岡博之²⁾・高橋英博³⁾

1)京都大学大学院情報学研究科

2)京都大学大学院農学研究科

3)農研機構近畿中国四国農業研究センター

所属機関名
MS P明朝 10ポイント
行間設定 固定値 15.2ポイント

(受付日 2015/10/03; 受理日 2016/01/01)

要旨見出し

要旨 MS Pゴシック 10ポイント

日付は事務局扱い

15 研究論文は、和文または英文とする。和文の場合は、英文の表題、著者名(ローマ字書き、フルネーム)、所属機関名、英文サマリ(Summary)をつけ、さらに英文サマリに相当する和文(要旨)を添える。英文の場合は、和文の表題、著者名および所属機関名、和文要旨を付ける。本文第1頁の脚注および英文サマリ(または和文要旨)の脚注に住所(郵便番号も)と著者連絡先のメールアドレスを入れる。原稿(論文以外の原稿(短報、技術論文、総説、資料)を除く)論文、短報、技術論文、総説、資料をいう。以下、論文と略す)も上記に準じ、和英双方の巻頭(表題、著者名の後、緒言の前)に、本文が和文の場合は和文要旨を、本文が英文の場合は英文要旨を、要旨は、読者が一読してその論文の内容を的確に把握できるように、研究の目的、材料、方法、実験、結果、考察、結論の概要を簡潔かつ具体的に記述する。要旨の字数は、和文 800 字以内、英文 400 語以内とする。以下の文章は、「システム農学会誌」へ提出される論文に用いる書式について述べる。

要旨では改段落をしない
数式エディタ等は使用しない

キーワード見出し

25 キーワード MS Pゴシック 10ポイント

1 論文 6 語以内(短報は 3 語以内)、英文は abc 順、要旨と英文サマリの後、和文および英文、和文はアイウエオ順

セクション見出し
MS Pゴシック 12ポイント
前後は1行空ける

30 1. はじめに
本要領の目的は、システム農学会誌の投稿のために投稿される原稿の書式を標準化することである。なお、本要領は「研究論文」を対象に作成している。他の区分(「短報」「技術論文」「総説」「資料」等)について本要領を適宜読み替えの上、原稿を作成されたい。

段の間隔
3字

35 提出される論文は、印刷版と同じレイアウトで、A4版縦長の用紙に横書きで、要旨・英文サマリは一段組 50 字/段×46 行/頁で、論文本文は二段組、段間隔 3 字 46 行/頁で余白は上下 2.5 cm、左右 2.0 cm とし、行に番号を振る(図 1、2、3、4、5)。

は同等)フォント、英数字記号は日本語と同じフォント、または、Times New Roman(または同等)フォント、10ポイントである。論文題目とセクション見出しはこれより大きいフォントを使い、MS Pゴシック、または同等で、それぞれ 12ポイント、12ポイントとする。また、著者名のフォントは、日本語は MS P明朝(または同等)フォント、英数字記号は日本語と同じフォント、または、Times New Roman(または同等)フォント、12ポイントである。論文題目の行間隔は固定値 19ポイント(図 6)、それ以外は固定値 15.2ポイントとする(図 7)。

40 論文本文の基本フォントは、日本語は MS P明朝(また

脚注
テキストボックスで作成
MS P明朝 10ポイント
行間設定 固定値 15.2ポイント
テキストボックスの書式設定
文字列の折り返し「上下」
アンカーの移動
「文字列と一緒に移動する」をオフ
「アンカーを固定する」をオン
数字は半角、郵便番号、住所(都道府県から書く)
メールアドレスは yahoo メール等は受付不可

- 1) 〒606-8501 京都府京都市左京区吉田本町
 - 2) 〒606-8502 京都府京都市北白川追分町
 - 3) 〒721-8514 広島県福山市西深津町 6-12-1
- (Correspondence: jass_p@ml.affrc.go.jp)

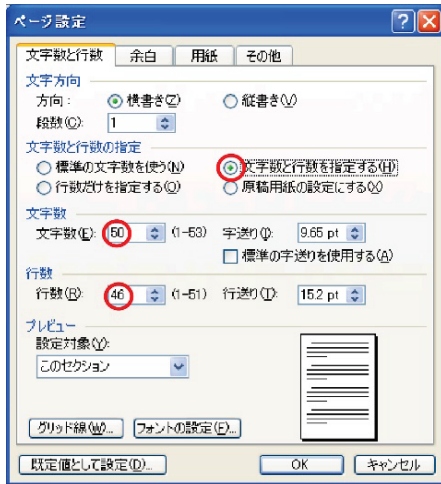


図1 ページ設定:文字数と行数

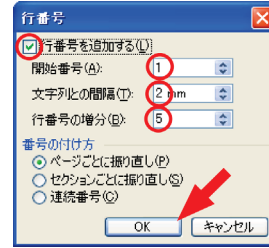


図4 ページ設定:行番号の設定



図5 段組の設定:2段組の間隔と段幅の設定

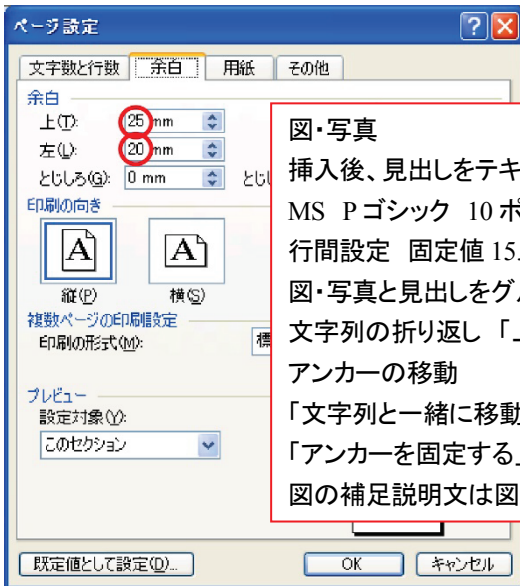


図2 ページ設定:余白

図・写真
 挿入後、見出しをテキストボックスで作成
 MS Pゴシック 10ポイント
 行間設定 固定値 15.2ポイント
 図・写真と見出しをグループ化し、書式設定を変更
 文字列の折り返し「上下」
 アンカーの移動
 「文字列と一緒に移動する」をオフ
 「アンカーを固定する」をオン
 図の補足説明文は図タイトルに揃える

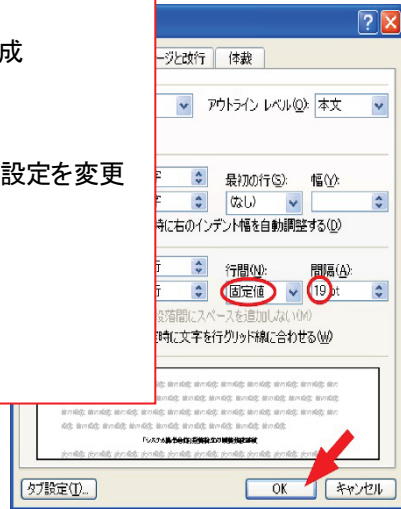


図6 行間隔の設定:論文題目の行間と間隔の設定

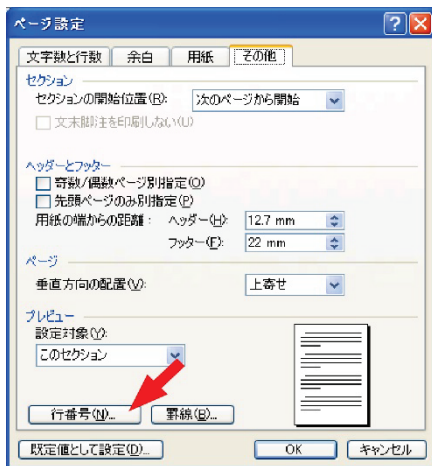


図3 ページ設定:「その他」のタブから行番号設定へ

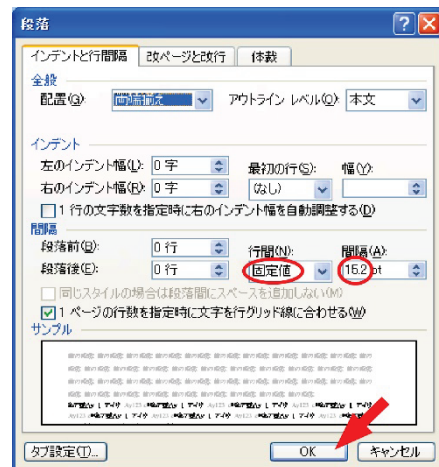


図7 行間隔の設定:題目以外の行間と間隔の設定

2. テンプレート

テンプレートとして、本要領を収録したMS Wordファイル(J.JASS_template.doc)が、利用可能である(システム農学会ホームページからダウンロード可能)。このテンプレート・ファイルには、文章中で使われるすべての書式とスタイルが含まれる。また、吹き出しを付けた説明用として“J.JASS_manuscript_guide.pdf”がわかりやすいので参照されたい。

10 論文の形式について、これらの資料やテンプレートを読んでもなお不明な点がある場合は、最新号中の論文を参照されたい。

3. 節の分割

15 論文の各セクションは、この例に示すように、1 から始まる連番を振る。セクション見出しは、左詰め、MS Pゴシック、12ポイントにする。セクション見出しは、上の本文との間に1行空けるが、下に続く本文との間には、空行を設けない。

セクション見出し
MS Pゴシック 12ポイント
上下の本文との間に1行空ける
先頭行となる場合には、上は空けない

20 3.1 サブセクション
サブセクションは、上記のように番号を付ける。サブセクション見出しは、左詰め、MS Pゴシック、10ポイントにする。サブセクション見出しは、上の本文との間に1行空けるが、下に続く本文との間には、空行を設けない。

サブセクション見出し
MS Pゴシック 10ポイント
上の本文との間に1行空ける
下に続く本文との間は空けない

3.1.1 サブ・サブセクション

30 サブ・サブセクションは、サブセクション見出しと同様に、左詰め、MS Pゴシック、10ポイントにする。サブ・サブセクション見出しは、上の本文との間に1行空けるが、下に続く本文との間には、空行を設けない。

サブ・サブセクション見出し
MS Pゴシック 10ポイント
上の本文との間に1行空ける
下に続く本文との間は空けない

サブセクション見出しの次の行にサブ・サブセクション見出しが来る場合は、空白行を入れない。

4. 表記方法と単位

和文原稿は当用漢字および現代かなづかいを用い、口語体で「である」調を原則とする。和文論文中の外国語はできるだけ和訳し、必要以上に外国語を用いることは避ける。論文の中で略称を用いる場合は、要旨・英文サマリと本文中の初出時に、正式名称を記述しなければならない。学名はイタリックとするが、var., f., sp.などはイタリックとしない。単位の記号は原則として国際単位系(SI:

the International System of Units)を用いる。ただし、重力45 単位の併記を認める。

5. 式と図表

5.1 式

50 式は例のように段の中央に書き、連番を右詰めで振る。

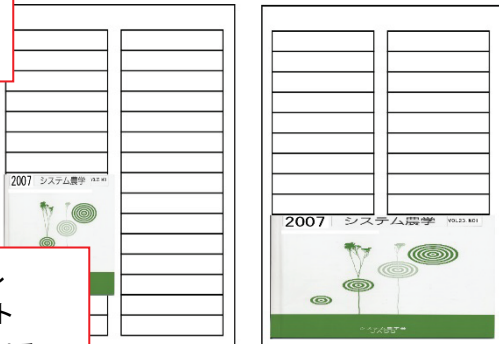
$$e=mc^2 \quad (1)$$

式は本文中では「式(1)」のように参照すること。式の作成はMS Wordに付属する数式エディタを用いるか、通常のテキストで作成する。数式で用いる記号が文章中で用いる場合、数式のフォントと同じとする。

図と写真、表

60 文原稿の図・写真の見出しと説明は、テキストボックスを作成しその中に入力し、和文、英文いずれか一方として併記はしない。

図は、コンピュータで作図し、そのまま製版可能なようにする。カラーで掲載希望のものはカラーで、モノクロで掲載希望のものはモノクロで作成すること。査読後の変更は原則として認めない。



図と写真の貼り付け位置

65 図と写真は、1 から始まる連番を振り、論文中の適切な場所に貼り付けるか、文末に置く(図8)。(図の補足説明文は図タイトルに揃える)

図が複数の描画オブジェクトから構成されるとき、すべてのオブジェクトが、1つのオブジェクトとしてグループ化されていないと見なされる。図・写真は、段、あるいは、

70 ページの上または下に、水平中央に配置する。図と写真の見出しは、MS Pゴシック(または同等)フォント、10ポイントで書き、図・写真の下方に、段、あるいは、ページの水平中央に配置する。注記や説明は、すべてその下方に記載する。

75 図と見出しを入力したテキストボックスはグループ化し

ておく。このことにより、図と見出しを、ひとつのオブジェクトとして取り扱うことが可能となり図表を移動したとき等に見出しが迷子になることを防ぐことができる。

図を配置後、文書の再編集を行うことでレイアウトを崩すことがあるが、これをできるだけ避ける方法として図の書式設定を以下のように変更することが望ましい。

①[図の書式設定]から、[レイアウト]タブを選択し[詳細設定]をクリックし[文字列の折り返し]設定を[上下]にする。「アンカー」(錨のマーク)を同じページ内で文書の編集後、ページが移らない段落に移動する。(図 11 参照)

②[図の書式設定] [レイアウト]タブを選択し[詳細設定]をクリックし[配置]タブを選択し、「文字列と一緒に移動する」のチェックをオフ、「アンカーを段落に固定する」をオンに変更する。[注2]これによりある程度レイアウトの崩れを避けることができる。(図 9 以降参照)

表の見出しと説明は、和文、英文いずれか一方として併記しない。



図 9 [図の書式設定]:「レイアウト」タブから詳細設定へ

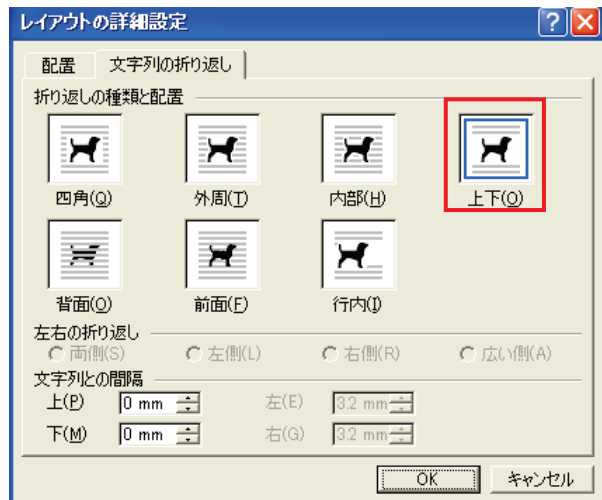


図 10 [文字列の折り返し]タブから折り返しの種類を変更

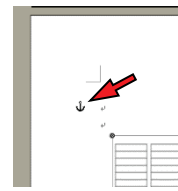


図 11 文書の編集後、ページが移らない段落にアンカーをドラッグで移動する。

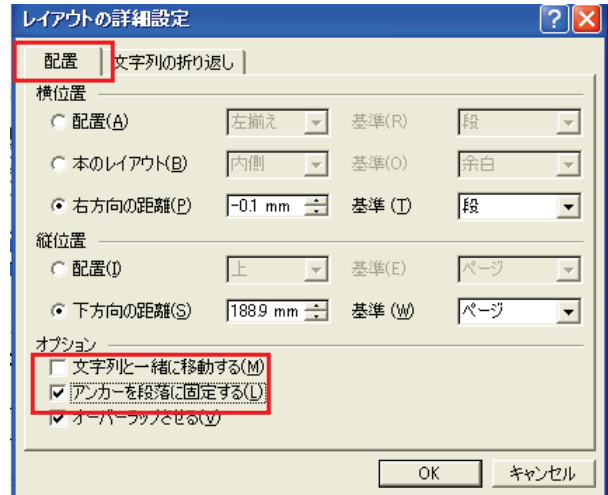
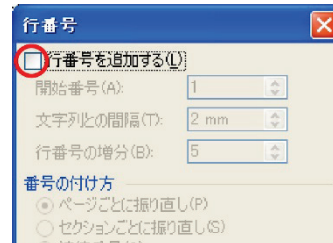


図 12 [配置]タブからオプションの設定

20



表見出し
MS Pゴシック 10ポイント
表の上方に、段、あるいはページの水平中央揃えで置く

表 1 原稿のファイル形式と記録媒体

原稿と記録媒体	受け付け可能なもの
ファイルの形式	MS Word 文書形式[a] (.doc または .docx 形式)
記録媒体(郵送時)	CD-R [b]

[a] MS Word は Microsoft 社の登録商標である

[b] CD-R は Compact Disk Rewritable の略称である

表中の注釈
小文字の[a],[b]を用いる MS P明朝 10ポイント

表は、1 から始まる連番を振り、論文中の適切な場所に挿入するか、文末に置く(表 1)。表は、段、あるいは、ページの上または下に、水平中央揃えで置く。見出しは、MS P ゴシック(または同等)フォント、10 ポイントで書き、5 表の上方に、段、あるいは、ページの水平中央揃えで置く。説明は、すべて見出しの下方、表の上方に記載する。注記[注 3]は、すべて表の下方に記載する。

6. 引用文献と参照

- 10 引用文献の見出しは、本執筆要領に記された書式を満
 番号なし、左詰めにし、フォントは MS P ゴシック 12 ポイント
 同等で、10 ポイントにする。見出しと引用文献一覧との
 間に、空行は設けない。
- 15 引用される文献一覧は、本文の末尾に一括して著者名
 の abc 順に並べる。同じ(筆頭)著者のものは年次順に、
 同じ(筆頭)著者の同一年のものは引用順に、(2003a)の
 ように、年の後に a, b, c, ... を付ける。これを本文中で引
 用する場合は、カッコ内に著者の名字と発表年で示す。
- 20 著者が 3 名以上の場合、「筆頭著者名ほか」(英文文
 献の場合は"1st-author *et al.*")で示す。文献の記載は、
 下記の例のようにする。すなわち、
- ・著書または編著は、著者名または編者名、年、書名、
 発行所名、発行都市名の順とする(システム農学会
- 25 1996)、
- ・著書または編著の一部を引用する場合は、著者名、
 年、表題、編者名:書名、発行所名、発行都市名、始
 めの頁-終りの頁の順とする(岡本 1998, Okamoto *et*
- 30 *al.* 2003a)、
- ・インターネットの場合は、著者名、年、表題、ホームペ
 ージ名、URL、発行所名、発行都市名の順とする
 (Mather and Aplin 2003, システム農学会 2006)、
 - ・雑誌の場合は、著者名、年、表題、雑誌名、巻、頁の
 順とする (Okamoto *et al.* 1998, Okamoto and
- 35 Kawashima 1999, 岡本ほか 2003b)、
- ・国際会議や国内大会、研究会論文集の場合は、著者
 名、年、表題、会議名(または、学会論文集名)、開催
 地、開催期間、発行者、発行都市名、巻、頁の順とす
 る(Okamoto *et al.* 2001)。
- 40 掲載誌名は省略をせず、正式名称を記載する。引用文
 献には、番号を振らない。インターネットのホームページ、
 英文の雑誌名はイタリックで表記する。巻号形式で発行
 されている雑誌、論文集等では原則として号を省略する。
 ただし通しページ番号が無く、号ごとにページ番号を付
 45 けている場合は、巻(号)として号番号を記載する。

セクション見出し
 MS P ゴシック 12 ポイント
 上下は 1 行空ける。
 先頭行となる場合には、上は空けない

7. 投稿論文のデジタル・コピー

審査を受けるために投稿する論文は、MS Word 文書
 形式のファイルで提出する。これ以外の形式のファイル
 50 は、原則として受け取らない(表 1)。

8. 論文の提出

「システム農学会誌」への掲載のために審査を受けよう
 する場合は、前節までの執筆要領に記された書式を満
 意に満たし、提出する原稿は、
 50 原稿を下記メールアドレスまで添付ファイルと
 して送るか、ダウンロード可能なデータサーバにアップロ
 ードしておくこと:

60 E-mail: jass_p@ml.affrc.go.jp
 原稿を郵送する場合は、印刷物 1 部とデジタル・コピー
 1 部を、下記まで送ること:

〒606-8502 京都市左京区北白川追分町
 京都大学大学院農学研究科応用生物科学専攻

65 システム農学会編集委員長 廣岡 博之
 郵送時の論文提出媒体は、Windows 7/8/10 で読み込み
 可能な CD-R が利用可能である(表 1)。論文に関する問
 い合わせも上記まで連絡いただきたい。

9. 最終原稿の書式

「システム農学会誌」原稿は、編集委員会で編集した後、
 写真製版で印刷される。掲載が決定した場合に提出す
 る最終原稿のレイアウトは、審査を受けるために提出す
 75 るときと同じで(ただし、行番号は付けない)、A4縦長
 の用紙に横書きで、要旨・英文サマリは一段組 50 字/段
 ×46 行/頁で、論文本文は二段組、段間隔 3 字 46 行/頁
 で、余白は上下 2.5 cm、左右 2.0 cm とする(図 1、2、3、
 4、5、13)。日本語は MS P 明朝(または同等)フォント、英
 80 数字記号は日本語と同じフォント、または、Times New
 Roman(または同等)フォントで、サイズは 10 ポイントとす
 る。

論文は MS Word 文書形式ファイルで提出されなければ
 ならない(表 1)。提出された論文は、原則として編集
 85 委員会で修正されない。論文を提出した筆者は、論文の
 体裁が本執筆要領で規定した書式を満たすまで、編集
 委員会の求めに応じて修正する義務を負う。この義務が
 果たされない場合は、その論文は掲載されないことがあ
 る。

90 提出する原稿はデジタル原稿とし、前節の宛先まで

送ること。原稿ファイルを郵送する場合、デジタル原稿を収める媒体は、Windows 7/8/10 で読み込み可能な CD-R が利用可能である(表 1)。カメラ・レディ原稿を作成することが困難な投稿者は、編集委員会で有料サポートするので、論文提出先まで連絡いただきたい。

謝辞見出し

謝辞

MS P ゴシック 10 ポイント

この文章は、Instructions to Authors of Papers to be Published in the Proceedings of the Annual Meeting of the Remote Sensing and Photogrammetric Society 2003 (Mather and Aplin 2003)と、システム農学会ホームページに掲載されている「論文投稿について」の原稿作成要領(システム農学会 2006, 小林 2000)を参考にして作成した。

注釈見出し

注釈

MS P ゴシック 10 ポイント

[注 1] 著者名と対応する所属機関名・住所の指示は数字を用いて論文構成し、注釈を認めることが止むを得ない。注釈見出しを番号では、注釈が必要な場所に、[注1], [注2], ... で示し、番号に対応する説明を、ここの例に示すように簡条書きにする。

注釈内容

MS P 明朝 10 ポイント

[注 2] Word において図は基本的に行または段落に結びついて挿入される。どの段落に結びついているかを示す記号に「アンカー」というものがある。アンカーを表示するためには、[ツール] [オプション][表示]タブより[アンカー記号]をチェックする。

[注 3] 表中の注釈は、小文字の[a], [b], ... を用いる。注釈が必要な場所に示し、表の下方に、日本語は MS P 明朝(または同等)フォント、英数字記号は日本語と同じフォント、または、Times New Roman(または同等)フォントで、サイズは 10 ポイントで簡条書きで記載する。

引用文献見出し

引用文献

MS P ゴシック 10 ポイント

小林健一, 2000, Microsoft Word を使った論文作成法, 日本機械学会誌, Vol. 103, pp. 396-403.

Mather, P. M., and Aplin, P., 2003, Instructions to authors of papers to be published in the proceedings of annual meeting of the Remote Sensing and

Photogrammetric Society 2003. In <http://www.geog.nottingham.ac.uk/~rspsoc03/RSPSoc-2003-Author-Instructions.html>, The Remote Sensing and Photogrammetric Society, Nottingham.

岡本勝男, 1998, 地球農林水産省農業環境確保と農業環境, 養

英文において空白が目立つ場合は、単語内にハイフン「-」を入れて区切り、調整することが可能である

Okamoto, K., Yamakawa, S., and Kawashima, H., 1998, Estimation of flood damage to rice production in North Korea in 1995. *International Journal of Remote Sensing*, Vol. 19, pp. 365-371.

Okamoto, K., and Kawashima, H., 1999, Estimation of rice-planted area in the tropical zone using a combination of optical and microwave satellite sensor data. *International Journal of Remote Sensing*, Vol. 20, pp. 1045-1048.

Okamoto, K., Yokozawa, M., and Kawashima, H., 2001, Evaluation of changes in climatic indices using combined analysis of remote sensing and GIS. In *Info-tech & Info-net: A Key to Better Life, edited by Y. X. Zhong, S. Cui and Y. Wang, held in Beijing, China, on 29 October - 1 November 2001*, IEEE and People's Posts & Telecommunications Publishing House, Beijing, pp. 133-138.

Okamoto, K., Shindo, J., and Kawashima, H., 2003a, Sustainable rice cropping and water resources in Asia. In *Advances in Ecological Sciences 19: Ecosystems and Sustainable Development IV, edited by E. Tiezzi, C. A. Brebbia and J-L. Usó*, WIT Press, Southampton, U.K., Vol. 2, pp. 1057-1065.

岡本勝男・横沢正幸・川島博之, 2003b, 衛星リモートセンシングを用いた災害の検出と評価, システム農学

引用文献一覧

- ・MS P 明朝 または Times New Roman 10 ポイント
- ・著者名(姓・名)の abc 順に並べる
- ・同じ著者のものは年順にする
- ・同じ(筆頭)著者の同一年ものは引用順に年の後に a,b,c...をつける
- ・著者は全て列記する
- ・インターネットのホームページ、英文の雑誌名はイタリックで表記する
- ・雑誌名等はフルスペルで記し、省略形を用いない
- ・巻で通しページを付けている場合は、号は省略する
- ・Vol. No. pp.の後ろには、半角スペースを入れる
- ・各引用文献の文末はピリオドを入れる
- ・段組みの最終ページとなる為、右段と左段の行の高さを揃える (1行多い場合は左の段を多くする)

Contributed paper | Short communication | Technical paper | Review article | Data

10 ポイント、いずれかを選択

Instructions to authors of papers to be published in
“The Journal of the Japanese Agricultural Systems Society” (in La
- Method using Microsoft Word software -

14 ポイント
行間設定 固定値 19 ポイント

Kazuyuki MORIYA¹⁾, Hiroyuki HIROOKA²⁾ and Hidehiro TAKAHASHI³⁾

12 ポイント

- 1) Department of Social Informatics, Kyoto University
- 2) Department of Agriculture, Kyoto University
- 3) Western region Agricultural Research Center, NARO

10 ポイント

(Received 3 October 2015; in final form 1 January 2016)

日付は事務局扱い

15 **Summary**

10 ポイント 太字

The paper should be written in Japanese or English. When writing a Japanese paper, it includes an English title, author’s full name and organization name and an English summary. And a paper is added the Japanese summary which is equivalent to an English summary. When writing an English paper, it includes a Japanese title, author’s full name and organization name and a Japanese summary. Add an address (including zip code), author’s mail address to a foot note on page 1 and a foot note of the English summary or the Japanese summary. A copy of the original paper (symposium paper, short communication, technical report, general remark, and data.) is prepared following the above, with the title and author’s name added in Japanese and English. The opening page of the paper (After the title and author’s name, before start of the discussion) includes a Japanese summary or an English summary. In the summary, describe the purpose of the study, materials, experiments, results, examination, and conclusion succinctly and concretely in order to clarify the content of the study for the reader. The summary should be no longer than 800 words in Japanese or 400 words in English. The following text describes the format that should be used for a paper presented to the “Journal of the Japanese Agricultural Systems Society”.

Key Words

10 ポイント 太字

Alphabetical, Japanese and English, Japanese syllabary, No more than 6 words (No more than 3 words for short communication), Succeeding abstract and summary

キーワードの順は ABC 順

35

40

-
- 1) Yoshida Honmachi, Sakyo-ku, Kyoto 606-8501, Japan
 - 2) Kitashirakawa Oiwakecho, Sakyo-ku, Kyoto 606-8502, Japan
 - 3) 6-12-1 Nishifukatsu-cho, Fukuyama-shi, Hiroshima, 721-8514, Japan
- (Correspondence: jass_p@ml.affrc.go.jp)

10 ポイント
住所は Japan まで書く